



日本の未来のために、 今できること

自治行政局行政課理事官

松田 健司

MATSUDA Kenji

平成 20年 4月 総務省採用

自治財政局財務調査課

平成 20年 8月 宮城県総務部財政課

平成 22年 4月 外務省国際協力局開発協力総括課開発協力企画室

平成 24年 4月 総務省自治行政局行政課

平成 26年 7月 徳島市財政部長 兼 理事

平成 29年 7月 総務省自治行政局地域政策課国際室国際協定専門官

平成 29年 8月 同 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室課長補佐

平成 30年 4月 名護市地域政策部長

令和 2年 4月 総務省自治行政局行政課課長補佐

令和 3年 4月 同 自治行政局住民制度課デジタル基盤推進室課長補佐

令和 4年 4月 同 自治行政局住民制度課マイナンバー制度支援室課長補佐

令和 5年 7月 現職

我が国は本格的な人口減少フェーズに突入し、官民問わず人材不足への対応が国家的な課題となっています。住民に身近な行政サービスの提供主体である地方公共団体においても例外は無く、ある小規模団体では職員定数の約半分が欠員となるかもしれないというショッキングなニュースが飛び込んできました。将来にわたって労働の担い手の急速な減少が見込まれる中、地方公共団体が時代の要請に応じた行政サービスを提供し続けられるようにすること、これが今、私たちが挑んでいるミッションです。

人口減少時代に求められる 国の役割とは

私はここ数年、自治行政局において、関係省庁の皆さんとも協力しながら、地方公共団体における個人情報保護制度の共通ルール化、サイバーセキュリティ対策の法制化、情報システムの標準化、そして、マイナンバーカードの普及や全国共通のキャッシュレス公金納付の導入といった政策に携わってきました。これらの政策は、いずれも自治体DX、行政のデジタル化といった文脈に位置付けられるものですが、その本質は、国において一種のプラットフォームを提供することで、各地方公共団体がこれ

を活用しながら、付加価値のある業務に注力し、あるいは業務の効率化を図り、質の高い行政サービスを持続的に提供できるようにしようとする点にあります。人口減少とデジタルの時代においては、国と地方、そして地方公共団体同士が協力し、業務を最適化していくことが求められており、総務省が果たすべきプラットフォーマーとしての役割は、今後も益々大きくなっていくものと感じています。

より良い仕事ができる職場であるために

皆さんの中には霞が関での働き方に若干の不安をお持ちの方もいるかもしれません。私自身の働き方を紹介すると、私は2年ほど前、第一子の誕生に伴い2か月間の育休を取得しました。現在も保育園の迎えや急な病気など家庭の用事には事欠きませんが、こうした時はテレワークの活用や早めの退庁で対応しています。職場の同僚にも皆それぞれの事情がありますが、互いに助け合いながらチームとして仕事に取り組んでおり、総務省における働き方は確実に変わっています。日本の未来のために、皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



赴任先の沖縄県名護市にて



家族と過ごす時間を大切にしています

人口減少が進む中、 地域社会のために今何をすべきか

私は現在、人口減少が進む中、自治体が公共施設をどのように適正に管理していくべきかという課題に取り組んでいます。例えば、今は多くの住民に利用されている体育館であっても、将来的には利用者が減少する可能性がある上に、老朽化が進み改修等も必要になります。自治体は、中長期的な視点に立って、どのような形で施設を維持すべきなのか、そのために必要な財源をどう確保するのかなどを考える必要があります。そのような状況に対して、国として何をすべきなのかということを考え、日々尽力しています。総務省では、地域に寄り添った仕事ができるのはもちろんのこと、次の世代のために今何をすべきなのかという将来を見据えた仕事ができることも醍醐味の一つだと感じています。

子供たちが笑って過ごせる 未来をつくろう。

「働きながら子育てをするイメージがわからない。両立なんてできるのだろうか。」子育てをし始めた

頃の私は内心そう思っていましたし、実際一人で全てをこなすことは到底できません。家族や職場の方々など周りに支えてもらいながら、その時々に応じて仕事と家庭の比重を変えて乗り越えてきました。仕事と子育ての両立に奔走して約10年、支え合いの大切さを実感するとともに、「この子たちに胸を張って言える仕事をしよう。」「この子たちが笑って過ごせる明るい未来を作る仕事をしよう。」と思うようになり、わが子たちの笑顔が私の原動力になっています。

チャレンジングな経験を通じて 新たな自分と出会う

仕事でもプライベートでも、チャレンジングなことを乗り越えるためには労力がかかることも多々あります。でも、その先には必ず成長した新たな自分が待っていると思います。私はこれまで、総務省・他省・自治体（長崎県・埼玉県）など色々なところで仕事をしてきましたが、総務省は、様々な場所で幅広い分野の仕事に挑戦する機会があることで、常に成長することができ、新たな自分に出会うことができる職場だと実感しています。皆さんも総務省の仕事を通じてチャレンジングな経験を積み重ねること

で、成長した新たな自分に出会ってみませんか。



霞ヶ関に戻ってもすぐに遊びに行けるのが埼玉の魅力の一つ



休日は子どもと出かけてリフレッシュ



子どもたちのために 明るい未来を。

自治財政局財務調査課理事官

梅本 祐子

UMEMOTO Yuko

平成 21年 4月 総務省採用

消防庁国民保護防災部防災課

平成 21年 8月 長崎県地域振興都市町振興課

平成 22年 4月 同 総務部財政課

平成 23年 4月 総務省行政管理局管理官付（消費者庁、経済産業省、環境省担当）

平成 25年 4月 同 自治税務局市町村税課主査

平成 27年 3月 厚生労働省社会・援護局総務課主査

平成 27年 7月 総務省大臣官房企画課主査

平成 28年 4月 自治体国際化協会総務部企画調査課長心得

平成 28年10月 同 総務部企画調査課長

平成 29年 4月 埼玉県環境部みどり自然課長

平成 31年 4月 同 企画財政部地域政策課長

令和 2年 4月 同 企画財政部財政課長

令和 3年 4月 総務省自治財政局公営企業課準公営企業室課長補佐

令和 4年 4月 同 自治財政局地方債課課長補佐

令和 4年 7月 同 自治行政局国際室参事官補佐

令和 6年 4月 同 自治財政局財務調査課課長補佐

令和 6年 8月 現職